

参考資料1 青梅市の現状把握

1 青梅市における基礎的環境の整理

(1) 地理的条件

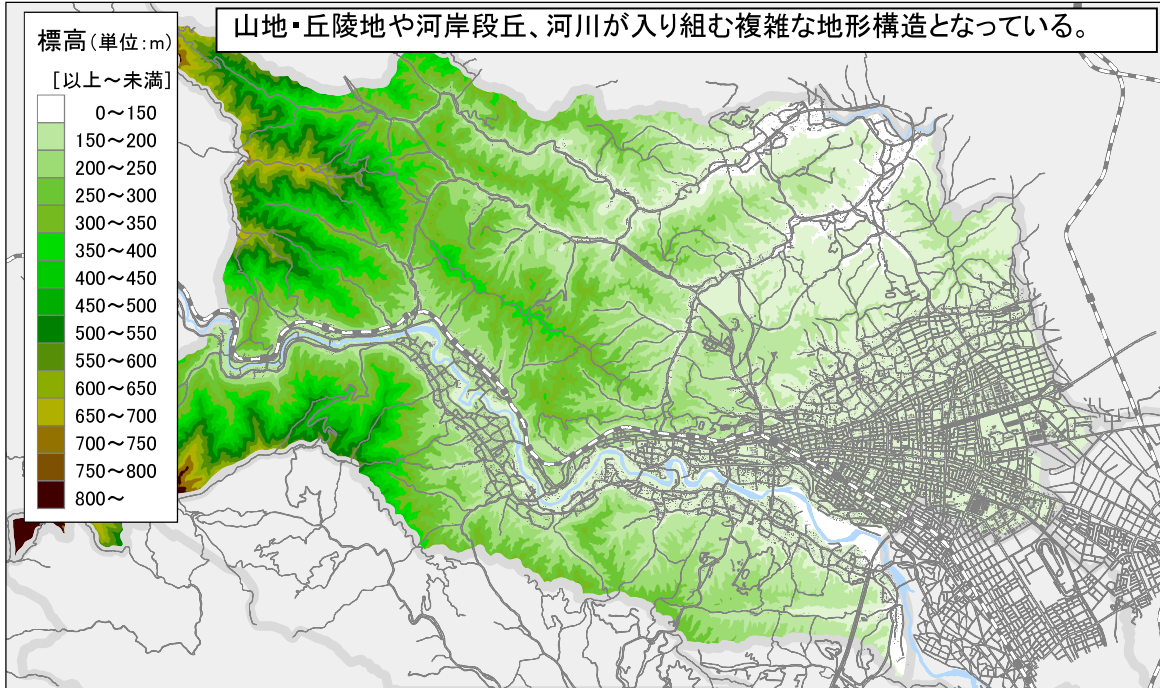


図 青梅市の地形状況

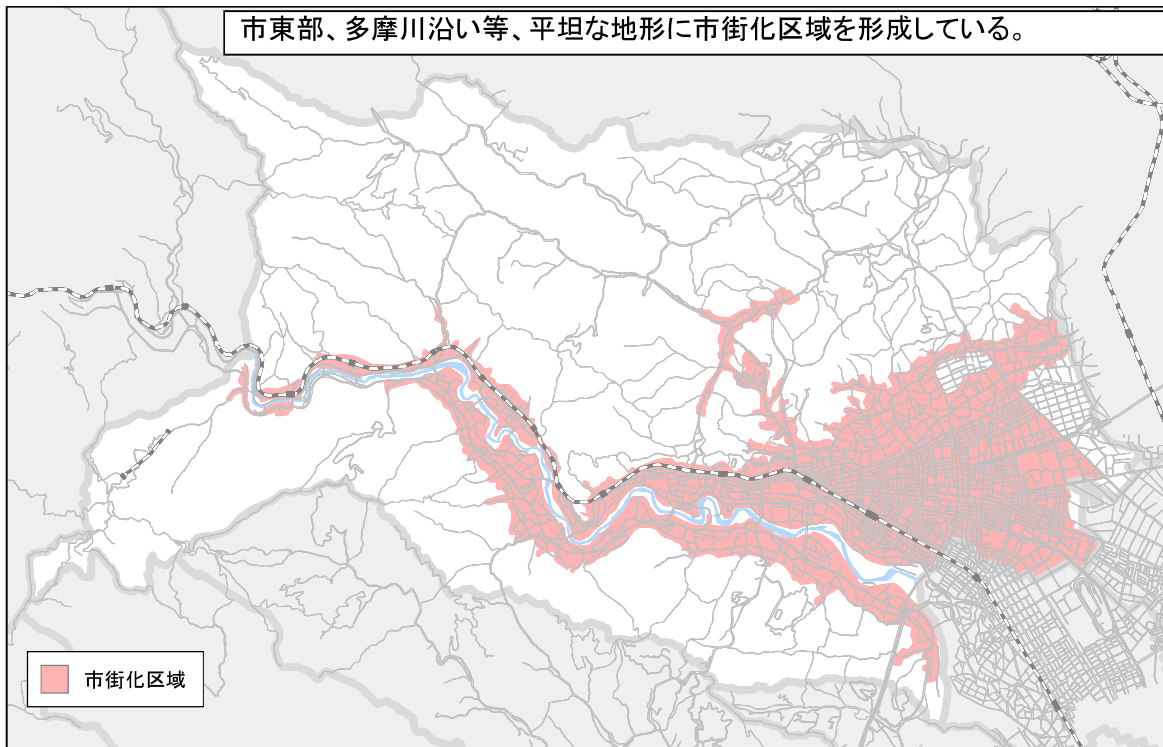


図 青梅市の市街化区域の状況

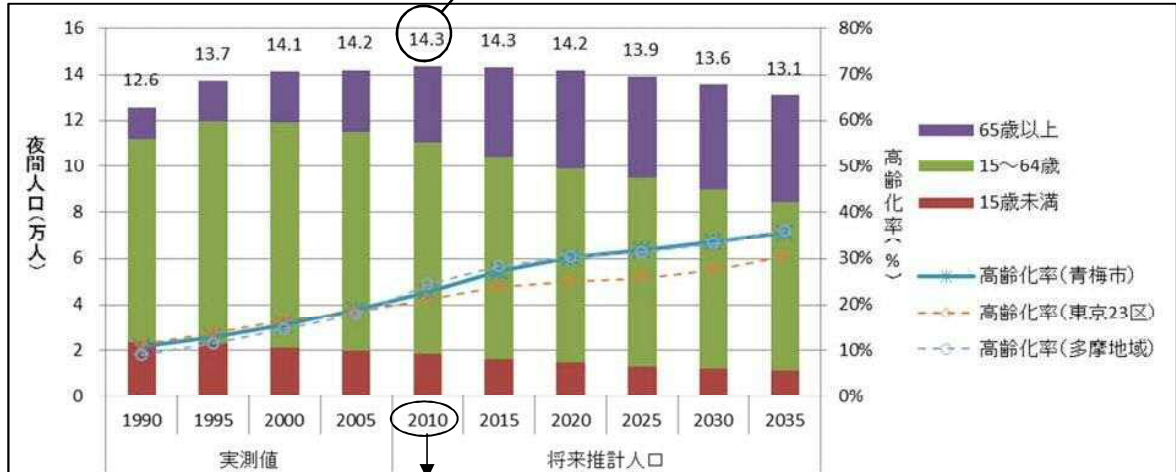
資料) 国土地理院『基盤地図情報』及び国土交通省国土政策局『国土数値情報』より作成

(2) 社会経済情勢

① 人口動向

○ 年齢階層別人口

2010年(平成22年)をピークとして減少することが見込まれる。



※平成22年国勢調査では、2010年の人口が13.9万人となり、本推計より急激に人口減少が進展している。
(65歳以上:3.2万人、15～64歳:8.9万人、15歳未満:1.8万人)

図 青梅市の年齢階層別人口と高齢化率の推移

資料) 1990-2005 総務省統計局『国勢調査(各該当年)』

2005-2035 国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)』

○ 地区別夜間人口の分布

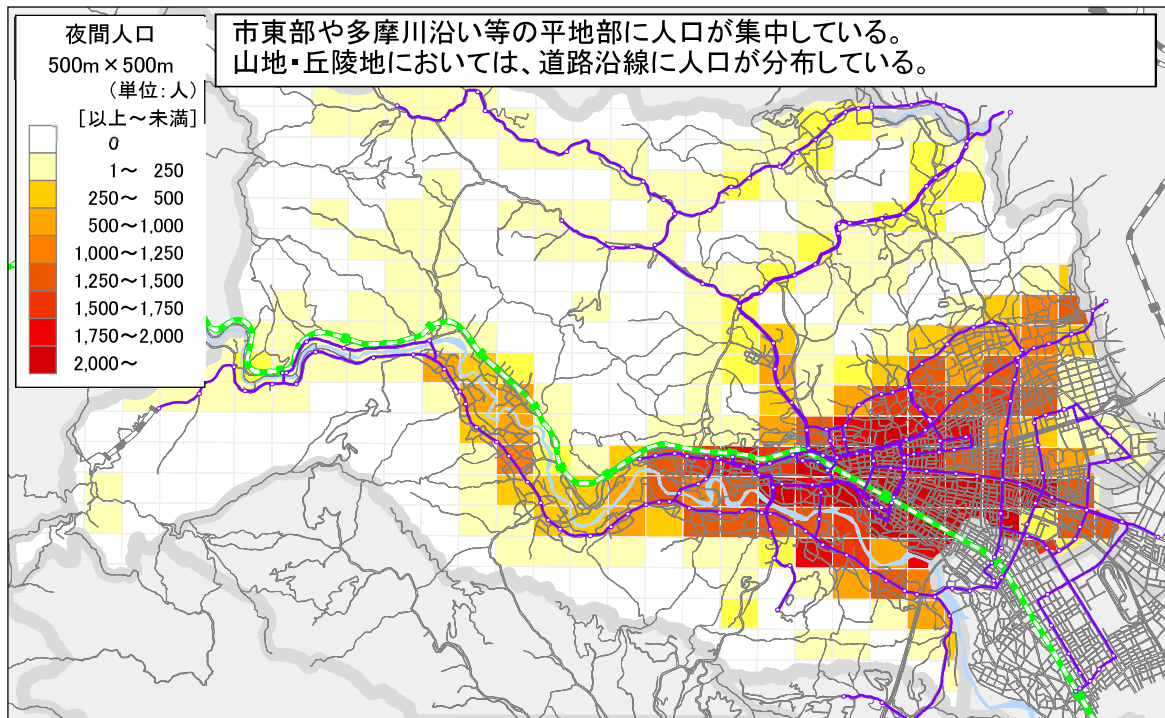


図 青梅市の夜間人口の分布

資料) 夜間人口:総務省統計局『国勢調査(平成17年)』

バス路線:各バス事業者HPより作成

② 地域経済状況

○ 小売業の商店数・従業者数・販売額

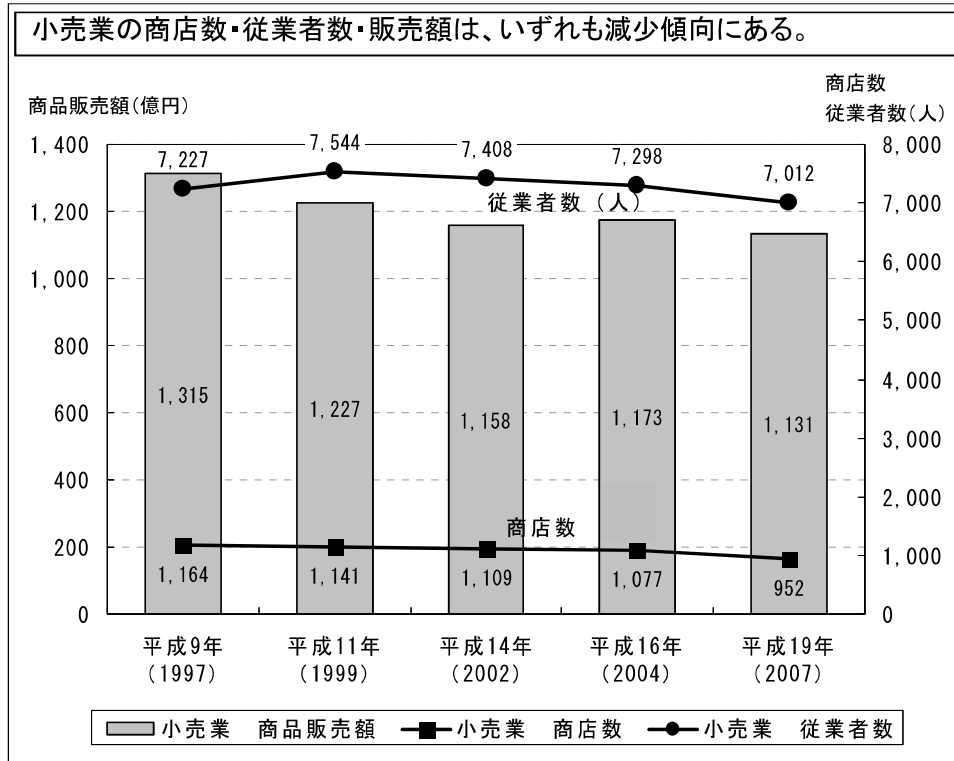


図 青梅市の小売業の商店数・従業者数・販売額

資料) 青梅市『青梅市総合長期計画策定のための基礎調査報告書(H23.8)』

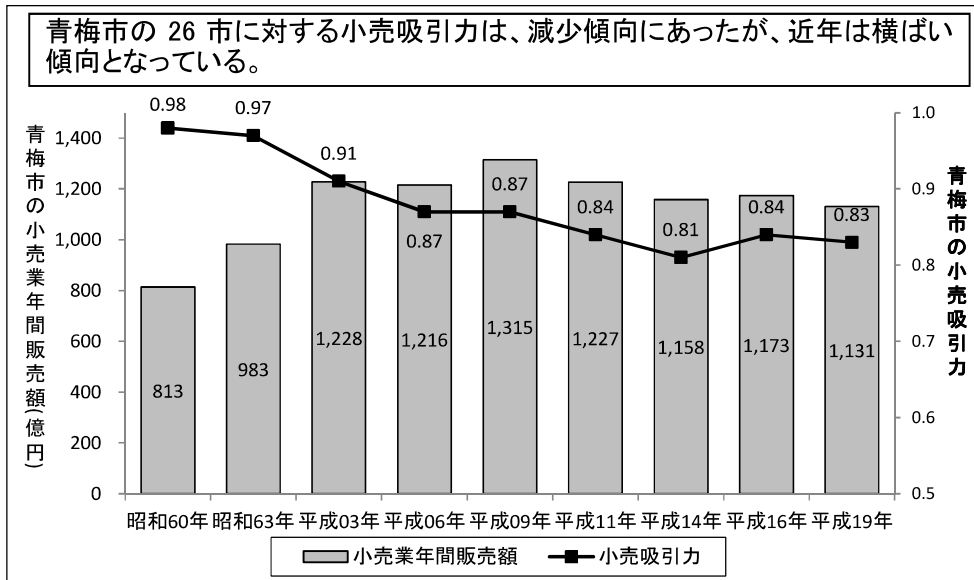


図 青梅市の小売業販売額、小売吸引力の推移

※1 小売吸引力=青梅市の1人当り販売額/26市の1人当り販売額

※2 小売吸引力が1.0以上の場合は、買い物客を外部から引きつけ、1.0未満の場合は、買い物客が外部へ流出しているとみることができる

資料) 東京都『東京都統計年鑑(各該当年)』

○ 工業の事業所・従業員・出荷額等

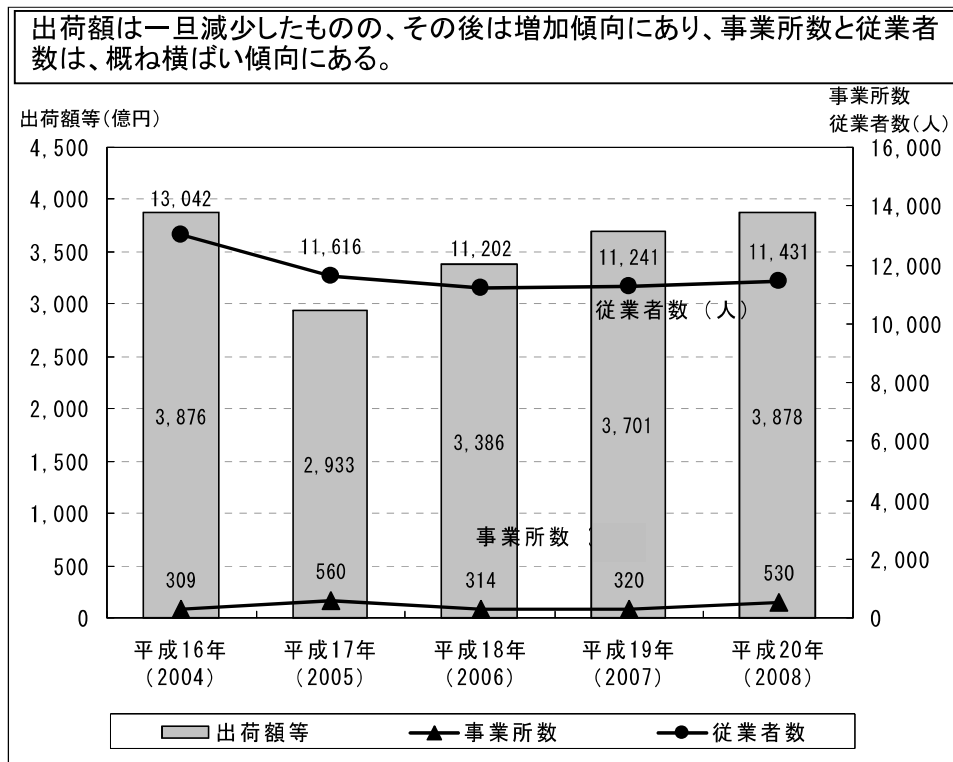


図 青梅市の工業の事業所・従業員・出荷額等

資料) 青梅市『青梅市総合長期計画策定のための基礎調査報告書(H23.8)』

○ 地区別従業員数の分布

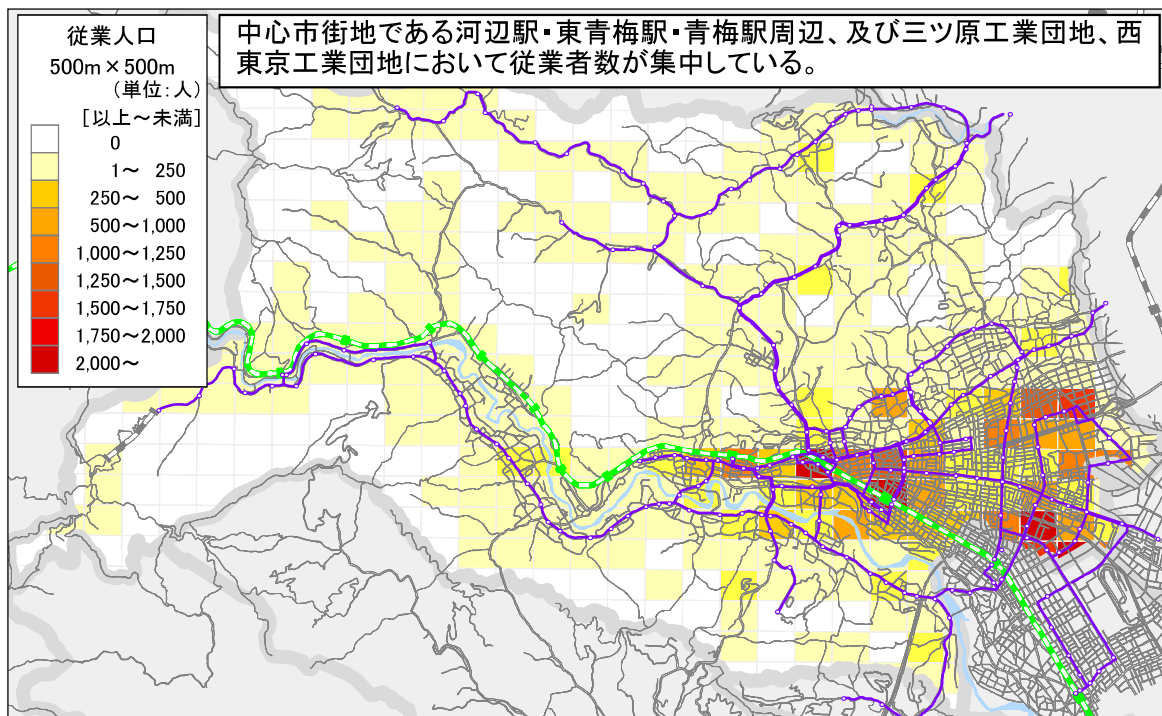


図 青梅市の従業員数の分布

資料) 従業員人口: 総務省統計局『事業所・企業統計調査(平成18年)』

(3) 社会基盤の状況

① 施設の分布状況

○ 目的施設の立地

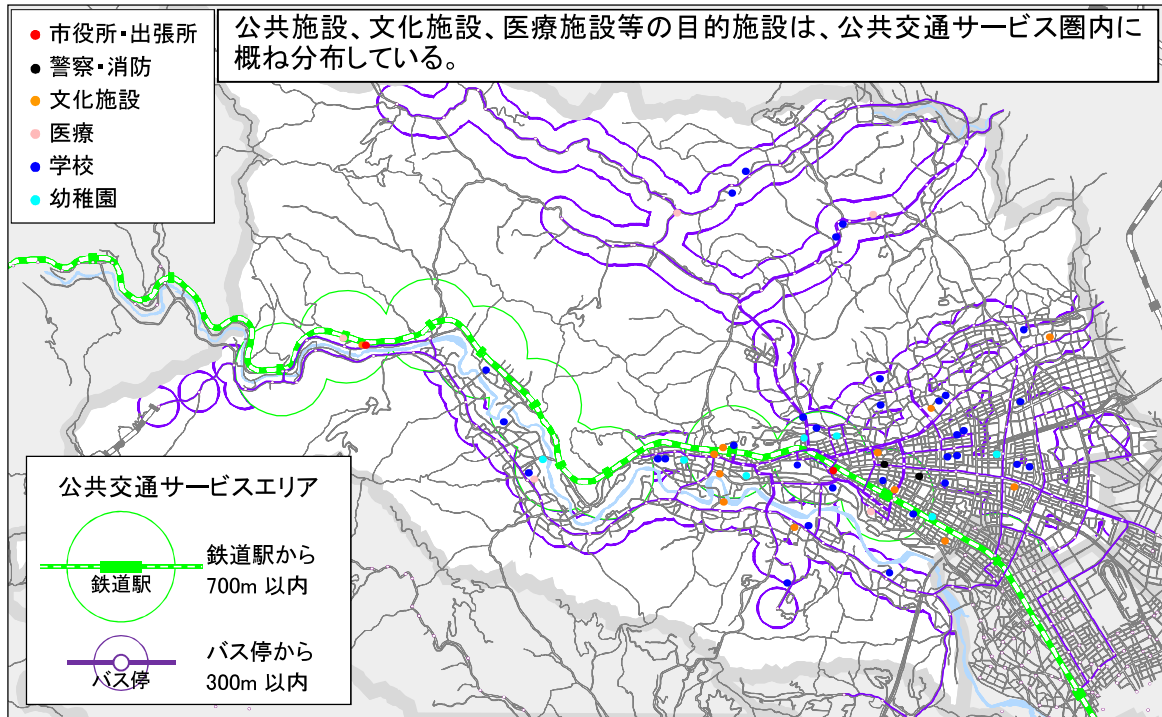
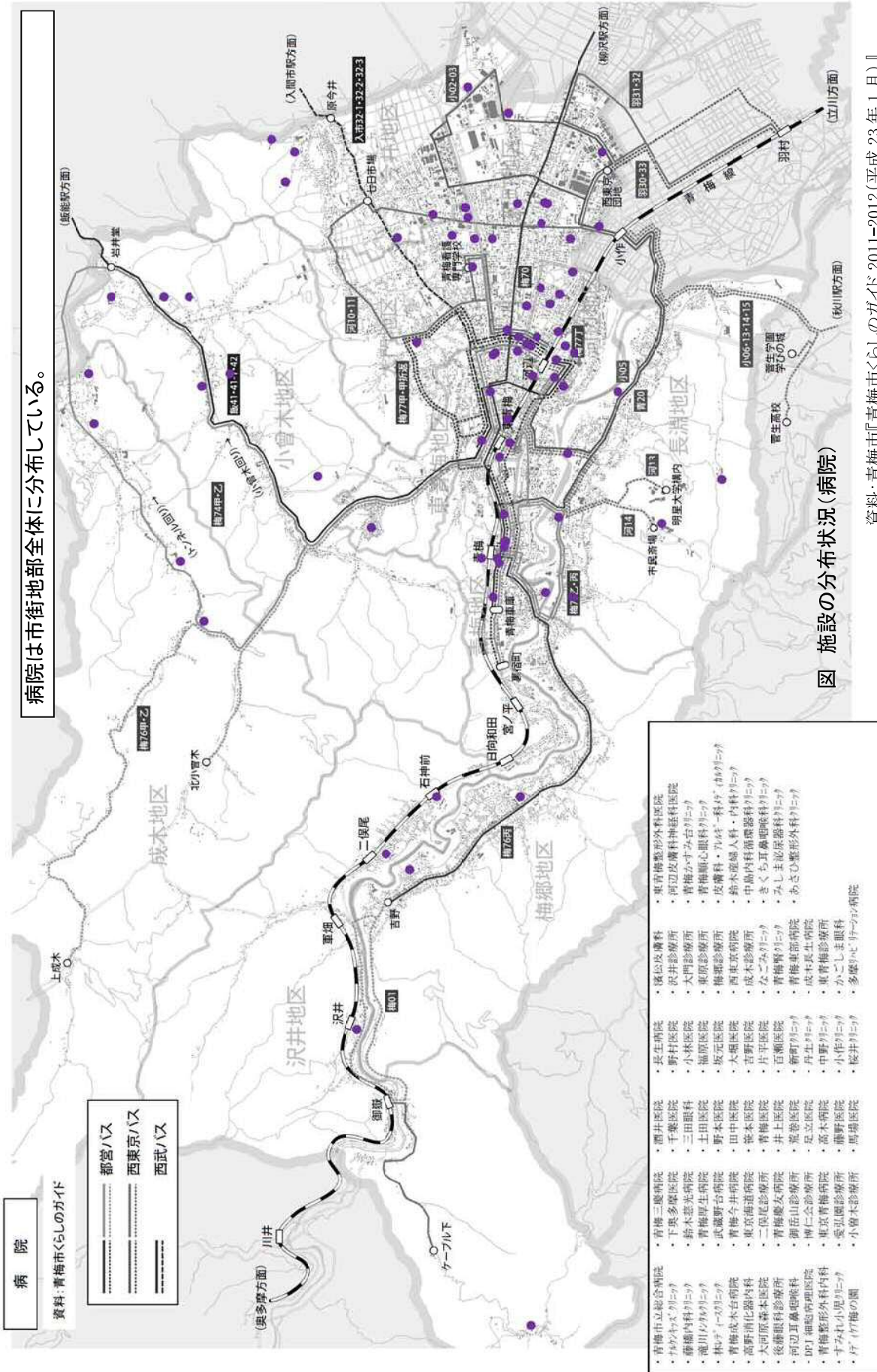


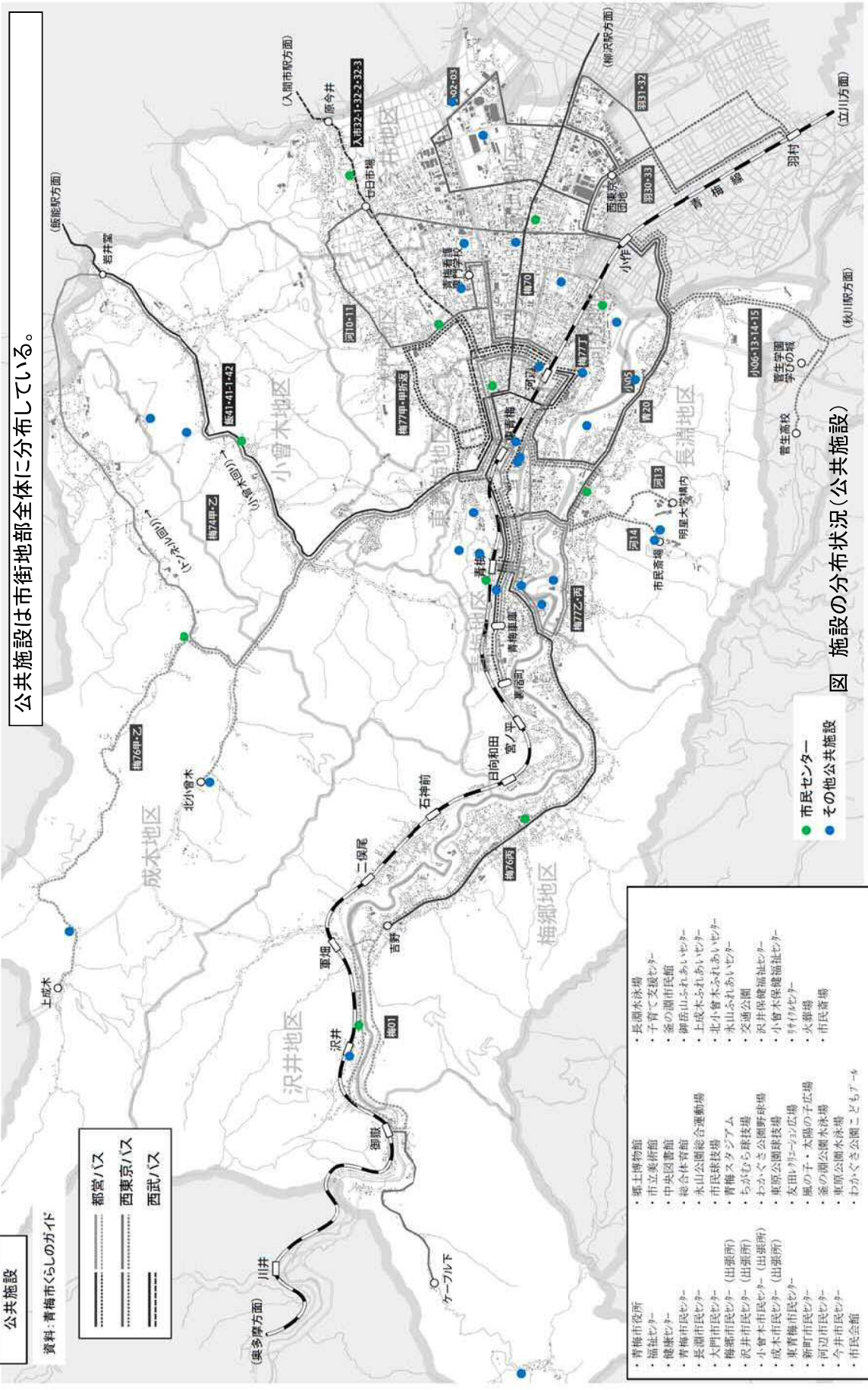
図 青梅市内の目的施設と公共交通サービスエリア

資料) 目的施設: 青梅市『青梅市わが街マップ』
バス路線: 各バス事業者 HP

○主要施設の分布状況



公共施設は市街地全体に分布している。



公共施設

資料：青梅市くらしのガイド

- 都営バス
- 西東京バス
- 西武バス

- 青梅市役所
- 福祉センター
- 健康センター
- 青梅市民センター
- 大門市民センター
- 長淵市民センター
- 梅郷市民センター(出張所)
- 沢井市民センター(出張所)
- 小曾木市民センター(出張所)
- 成本市民センター(出張所)
- 東青梅市民センター
- 新町市民センター
- 河辺市民センター
- 今井市民センター
- 市民会館
- 栗土博物館
- 市立美術館
- 中央図書館
- 総合体育館
- 永山公園総合運動場
- 市民球技場
- 青梅スタジアム
- ちがむら球技場
- わかぐさ公園野球場
- 東原公園球技場
- 友田マニエーション広場
- 風の子・太陽の子広場
- 釜の淵公園水泳場
- 東原公園水泳場
- わかぐさ公園子どもアレー
- 長淵水泳場
- 子育て支援センター
- 釜の淵市民館
- 御岳山ふれあいあいセンター
- 上成木ふれあいセンター
- 北小曾木ふれあいセンター
- 永山ふれあいセンター
- 交通公園
- 四井保健福祉センター
- 小曾木保健福祉センター
- 野付福祉センター
- 火葬場
- 市民斎場

図 施設の分布状況(公共施設)

- 市民センター
- その他公共施設

資料：青梅市『青梅市くらしのガイド 2011-2012(平成 23 年 1 月)』

② 道路状況

○ 都市計画道路整備状況

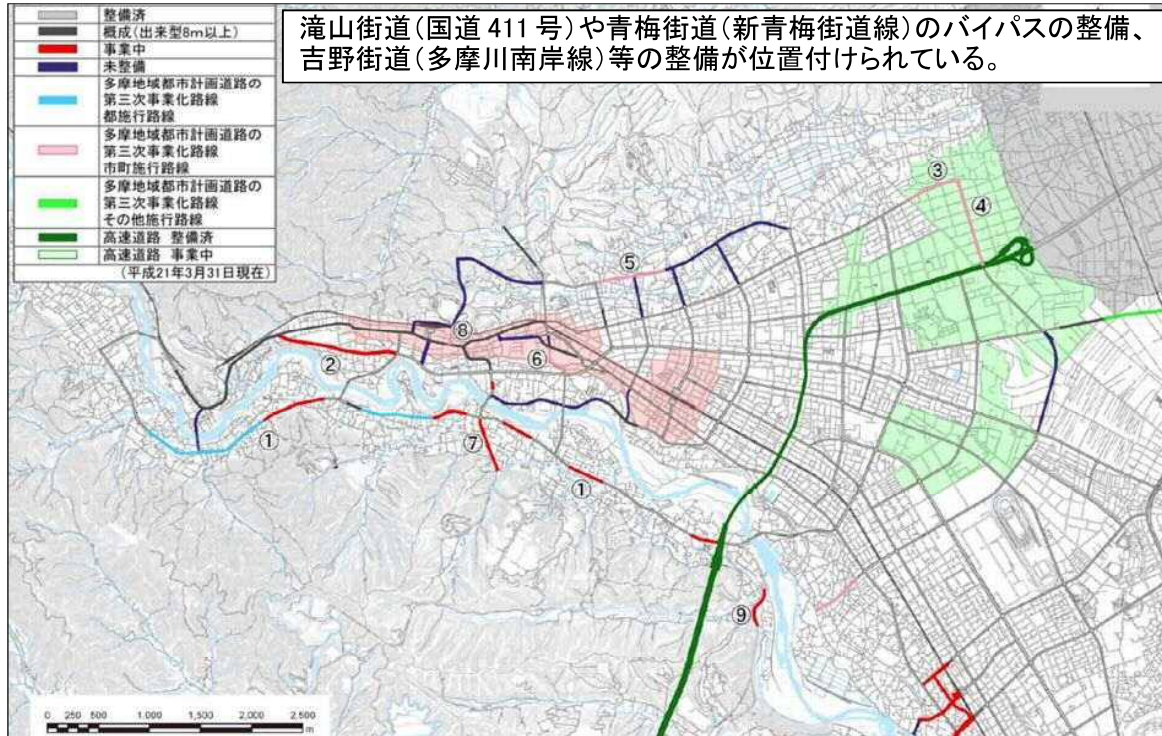


図 青梅市の道路整備状況

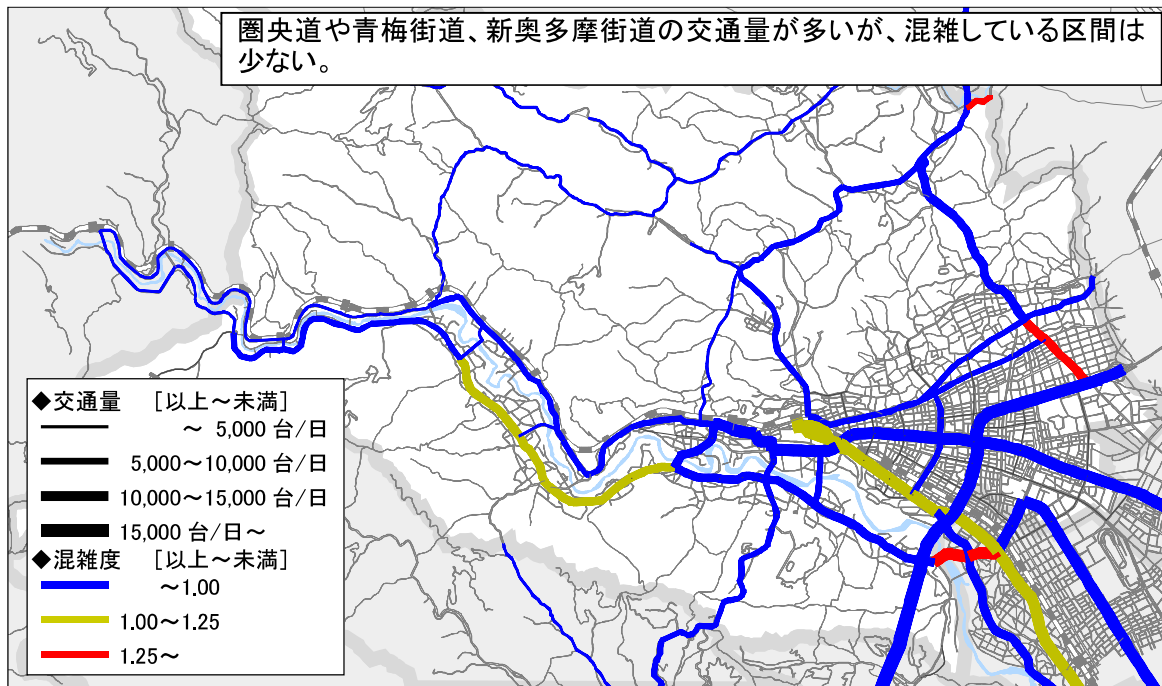
表 青梅市の道路整備の位置付け

番号	路線	路線の性格・位置付け
①	青梅3・4・1号 多摩川南岸線 (吉野街道)	青梅街道の交通緩和及び沿道サービスの機能を持つ路線。整備エリアとあきる野、奥多摩方面との連絡性を向上させる。(都施行)
②	青梅3・4・4号 新青梅街道線	青梅市街を東西方向に貫き、多摩地域の骨格となる幹線道路。整備エリアの通過車両による交通渋滞を緩和するとともに、来訪者の回遊性を確保し、観光・商業機能の向上を図る路線である。(都施行)
③	青梅3・5・12号 青梅中央道線	青梅市街の東西方向の交通条件を高める路線。青梅インターチェンジ周辺の機能展開地区内の交通機能を向上させる。(市施行)
④	青梅3・4・13号 青梅東端線	青梅市街の南北方向の交通条件を高める路線。青梅街道から青梅インターチェンジへのアクセスのほか、主要幹線道路と連絡するとともに、機能展開地区内の交通機能を向上させる。(市施行)
⑤	青梅3・4・18号 環状2号線	青梅市街の東西方向の交通条件を高める路線。整備エリアと機能展開地区を連絡する機能の一部を担う。(市施行)
⑥	青梅3・5・24号 根ヶ布長淵線	青梅市中心部に至る南北方向の道路。青梅市街を東西方向に貫く幹線道路間の連絡性を向上させる。(市施行)
⑦	青梅3・4・25号 調布橋線 (秋川街道)	青梅市中心部から多摩川を渡り南下する路線。整備エリアとあきる野、八王子方面との連絡を向上させる。(都施行)
⑧	青梅3・5・26号 永山グランド線	青梅市中心部の南北方向の交通条件を高める路線。整備エリア内の交通機能、防災機能を向上させる。(市施行)
⑨	国道411号 (滝山街道)	多摩西部地域を多摩川に並行して延びる幹線道路。整備エリアとあきる野、八王子方面及び奥多摩方面との連絡性を向上させる。(都施行)

※永山グランド線は、現在都市計画決定が変更され、路線が短くなっている。

出典)東京都都市整備局『多摩の拠点整備基本計画(平成21年8月)』

○ 道路交通量、混雑状況



※「道路の交通容量」（昭和 59 年（社）日本道路協会）による混雑度の考え方
 混雑度 1.00 未満：「昼間 12 時間を通して、道路が混雑することなく円滑に走行できる。渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんどない。」
 混雑度 1.00～1.25：「道路混雑する可能性がある時間が 1～2 時間（ピーク時間）ある。何時間も混雑が連続する可能性は極端に小さい。」
 混雑度 1.25～1.75：「ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態で、ピーク時の混雑から日中の連続的混雑への過渡状態。」

図 青梅市内の道路の交通量、混雑度

資料) 国土交通省『全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)(平成 22 年度)』箇所別基本表

○ 大型車混入率

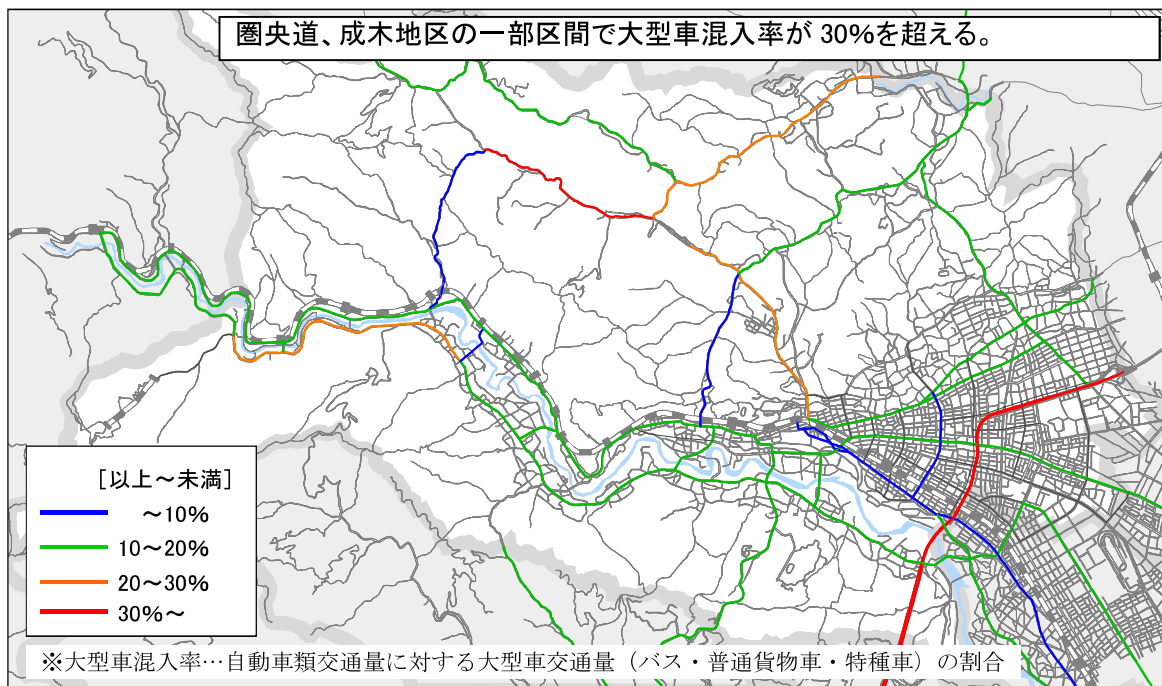


図 青梅市内の道路の大型車混入率

資料) 国土交通省『全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)(平成 22 年度)』箇所別基本表

(4) 交通実態

① 代表交通手段分担率

青梅市では、バス分担率は10年間で1ポイント減少、鉄道分担率は増加している。
 鉄道から離れるほど自動車分担率が高く、青梅市は東京都市圏の中でも自動車分担率は高い地域となっている。

図 青梅市小ゾーン別代表交通手段分担率*

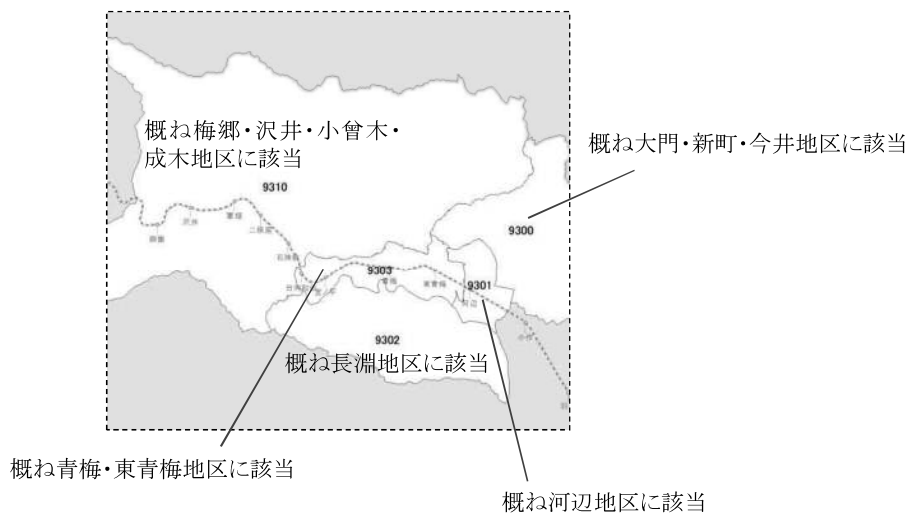
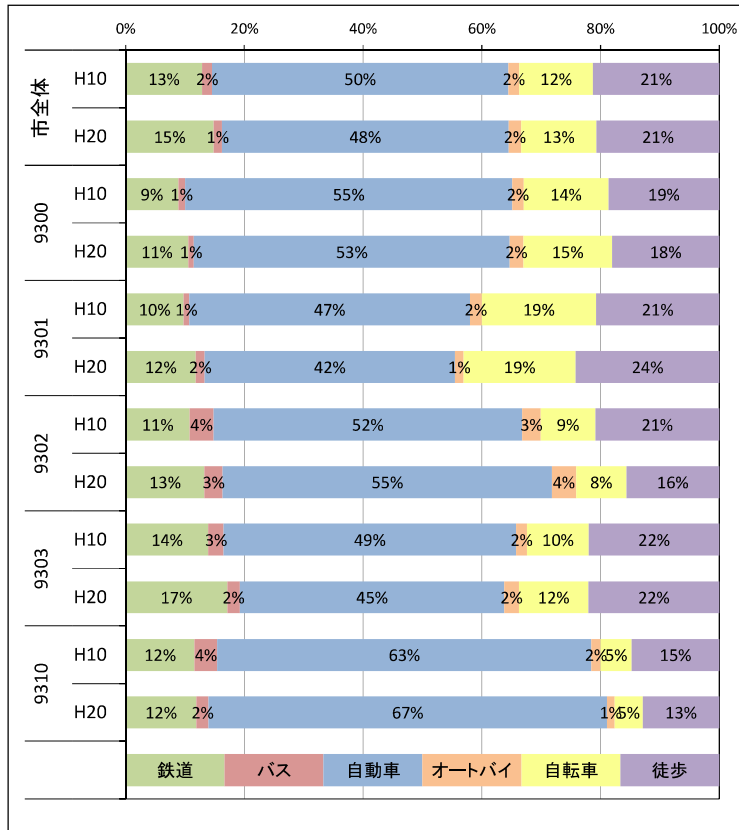


図 H20 東京 PT 小ゾーン

*代表交通手段分担率: 1つの移動目的ごとに利用した代表的な交通手段の割合のことをいう。
 *パーソントリップ調査: 都市圏内居住者の移動に関するデータを把握する調査で、交通計画等に利用されている。

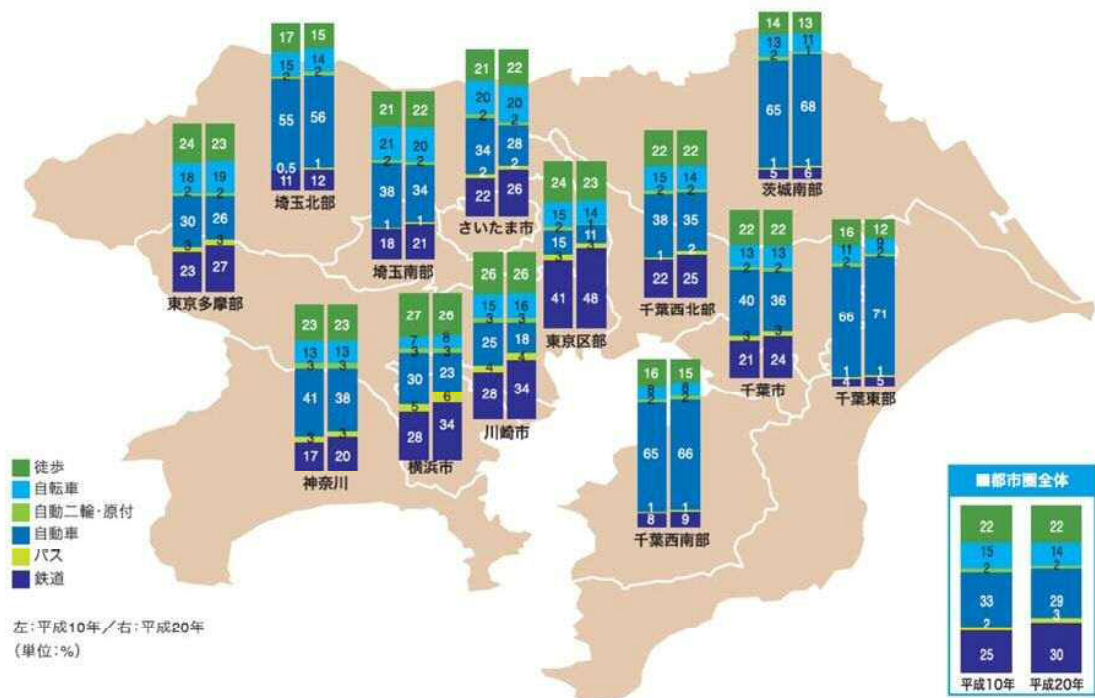
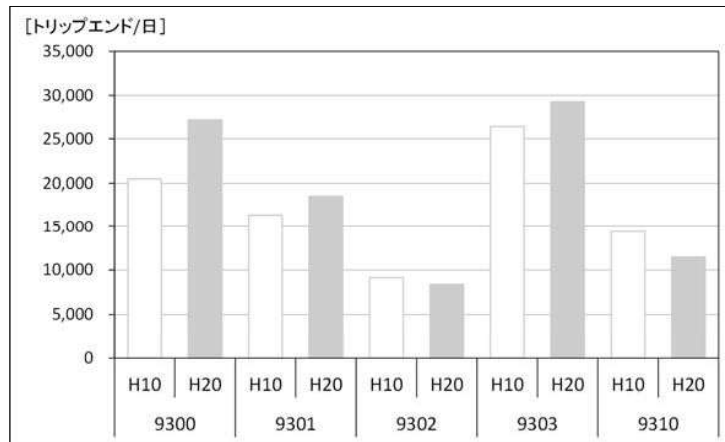


図 東京都市圏の地域別代表交通手段分担率

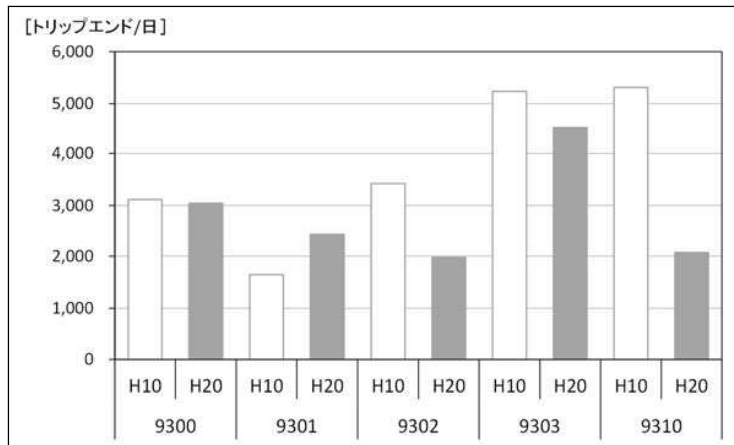
資料) 東京都市圏交通計画協議会『東京都市圏パーソントリップ(PT)調査*(平成10年、平成20年)』

② 発生集中量 (H10/H20)

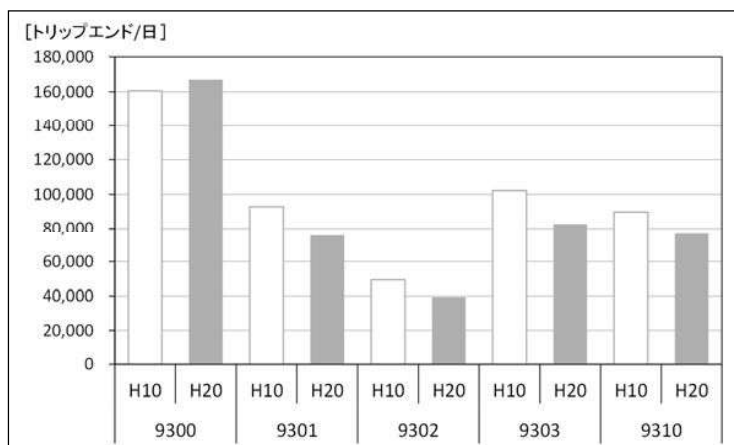
鉄道の発生集中量*は10年間で増加傾向、バスの発生集中量は10年間で減少傾向、自動車の発生集中量は10年間で減少傾向にある。



小ゾーン別鉄道発生集中量



小ゾーン別バス発生集中量



小ゾーン別自動車発生集中量

図 青梅市の交通手段別発生集中量

資料) 東京都市圏交通計画協議会『東京都市圏パーソントリップ(PT)調査(平成10年、平成20年)』

*発生集中量: 1つの目的を持つ移動が、当該ゾーンから出発した量(発生量)、及び到着した量(集中量)のことをいう。

③ 青梅市内外交通 OD (H20)

青梅市関連トリップのうち、1/4 が市外との移動(内外交通)で、内外トリップは「羽村市」「瑞穂町」をはじめとした青梅市周辺地域に多い。また、遠方では JR 中央線沿線市区との交通がみられる。

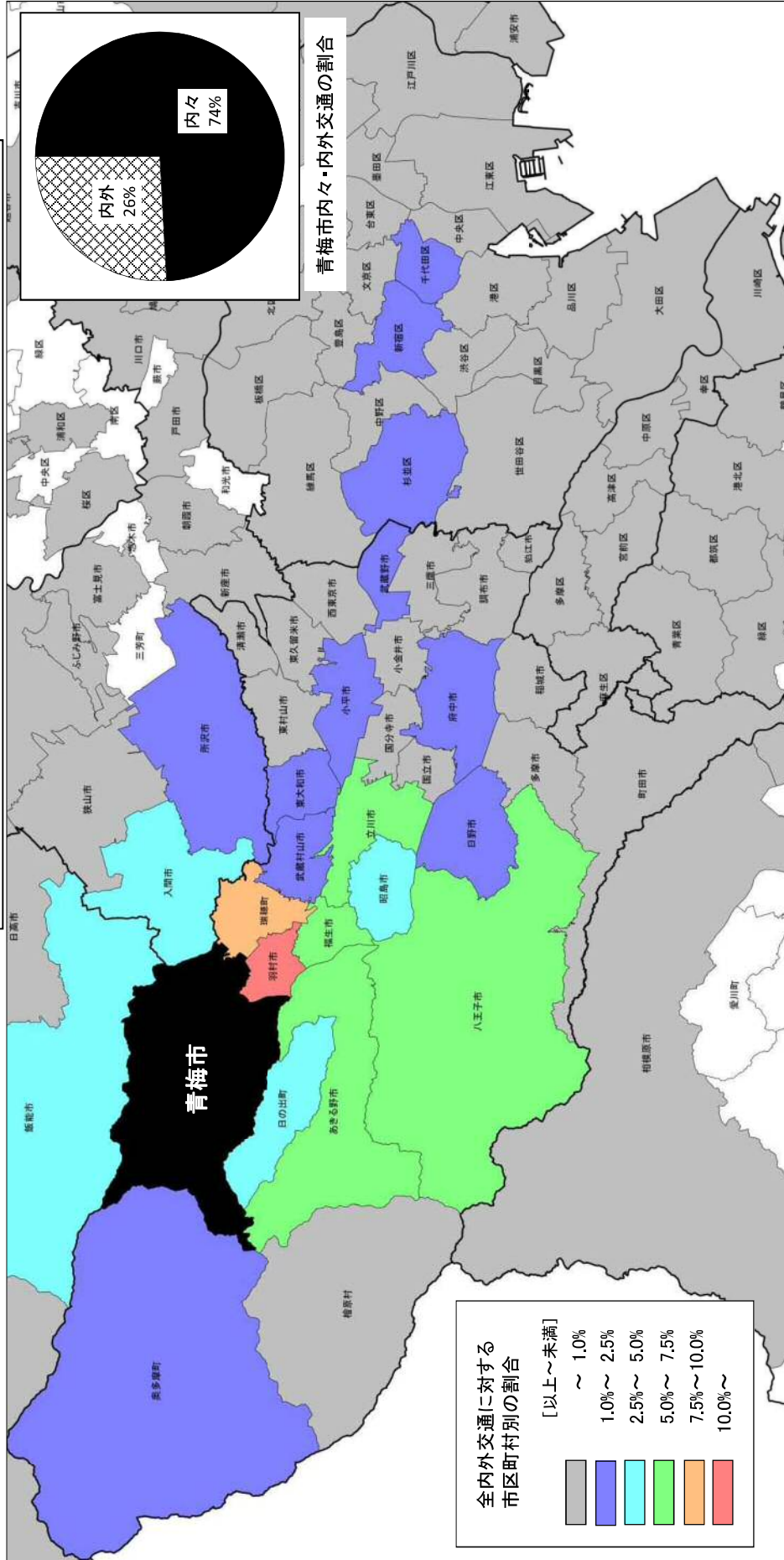
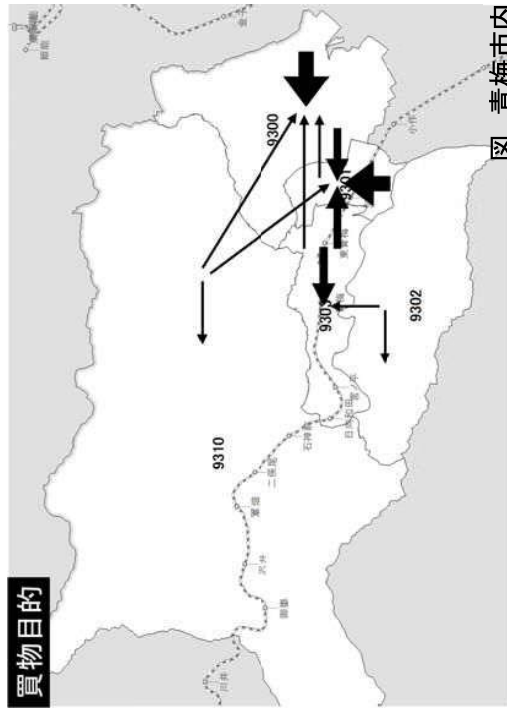
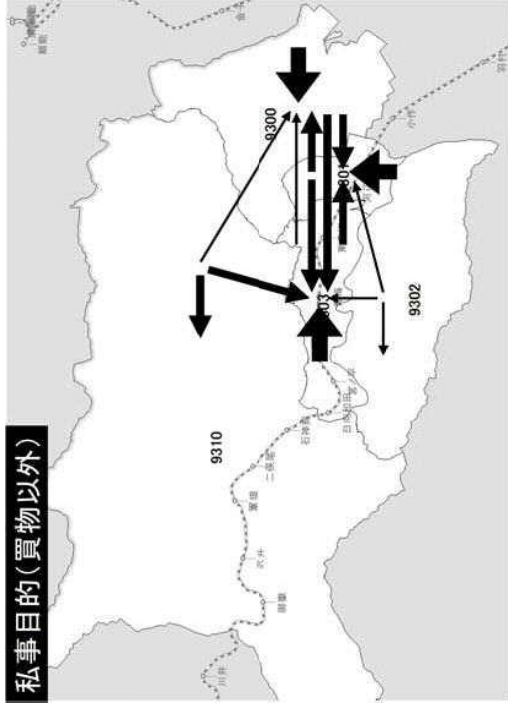
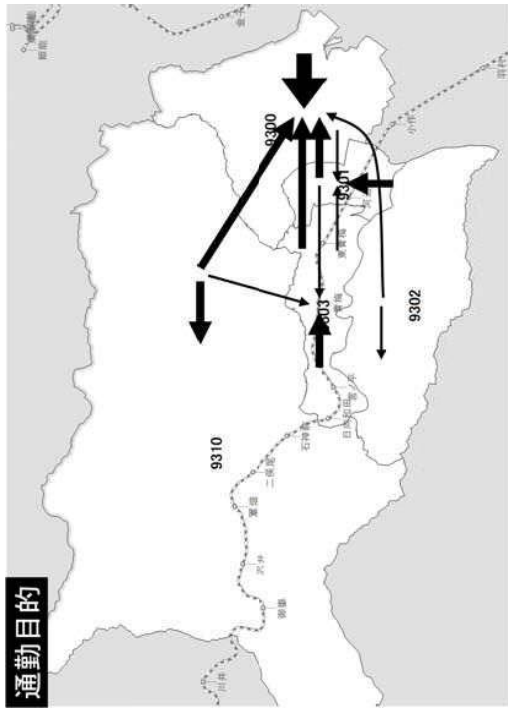


図 青梅市発着交通の分布

資料) 東京都圏交通計画協議会『東京都圏パーソントリップ (PT) 調査 (平成 20 年)』

④ 青梅市内々々交通流動

通勤目的は、三ツ原工業団地と西東京工業団地がある9300ゾーンへのトリップが多い。
 買物目的は、河辺駅周辺商業集積がある9301ゾーンへのトリップが多い。
 買物以外の私事目的は、9300・9301・9303の各ゾーンへのトリップが多い。



資料) 東京都圏交通計画協議会『東京都圏パーソントリップ(PT)調査(平成20年)』

(5) 観光の状況

青梅市の入込観光客数は、西多摩地域の中では最も大きい、近年は減少傾向にある。
 行祭事の入込観光客数は、青梅大祭は増加傾向、他はほぼ横ばいである。

図 西多摩地域の入込観光客数

資料) 西多摩地域広域行政圏協議会『西多摩地域入込観光客数調査』

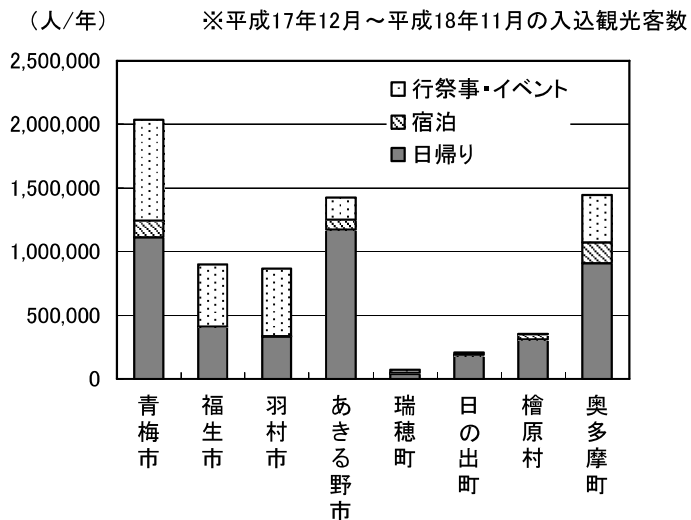


図 青梅市の入込観光客数

資料) 西多摩地域広域行政圏協議会『西多摩地域入込観光客数調査』

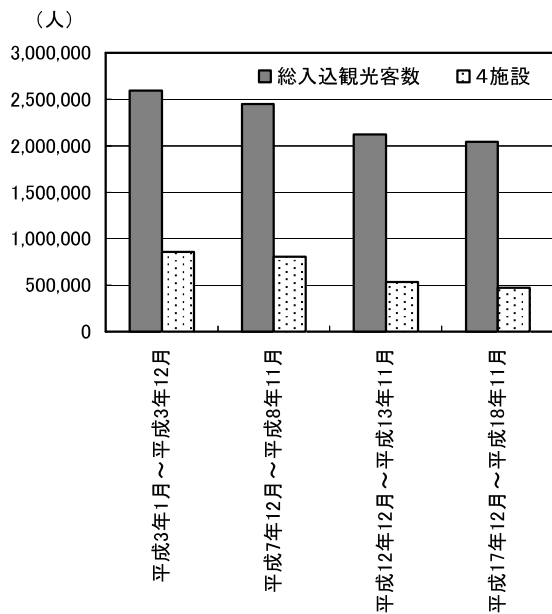
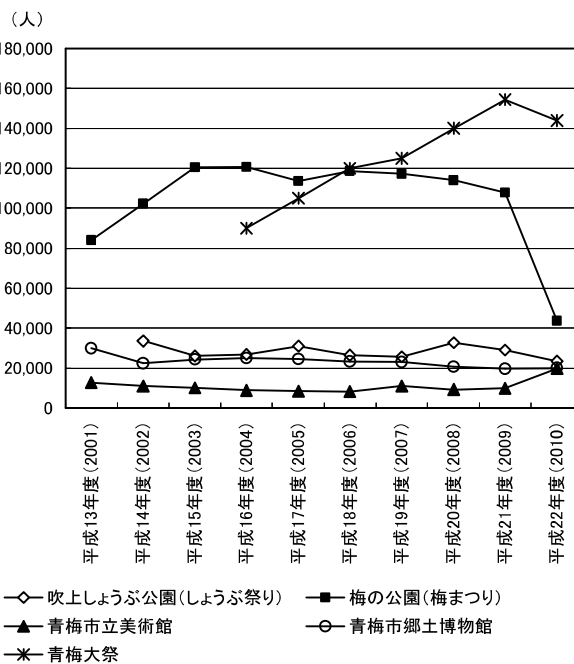


図 青梅市の行祭事・施設の来訪者数

資料) 青梅市資料



※4施設: 御岳山、玉堂美術館、吉川英治記念館、青梅鉄道公園

吹上花しょうぶまつり(6月/有料期間入場者数)
 吉野梅郷梅まつり(2月下旬～3月末/有料期間入場者数)
 青梅市立美術館(年間入場者数)
 青梅市郷土博物館(年間入場者数)
 青梅大祭(5月2・3日/警察発表)

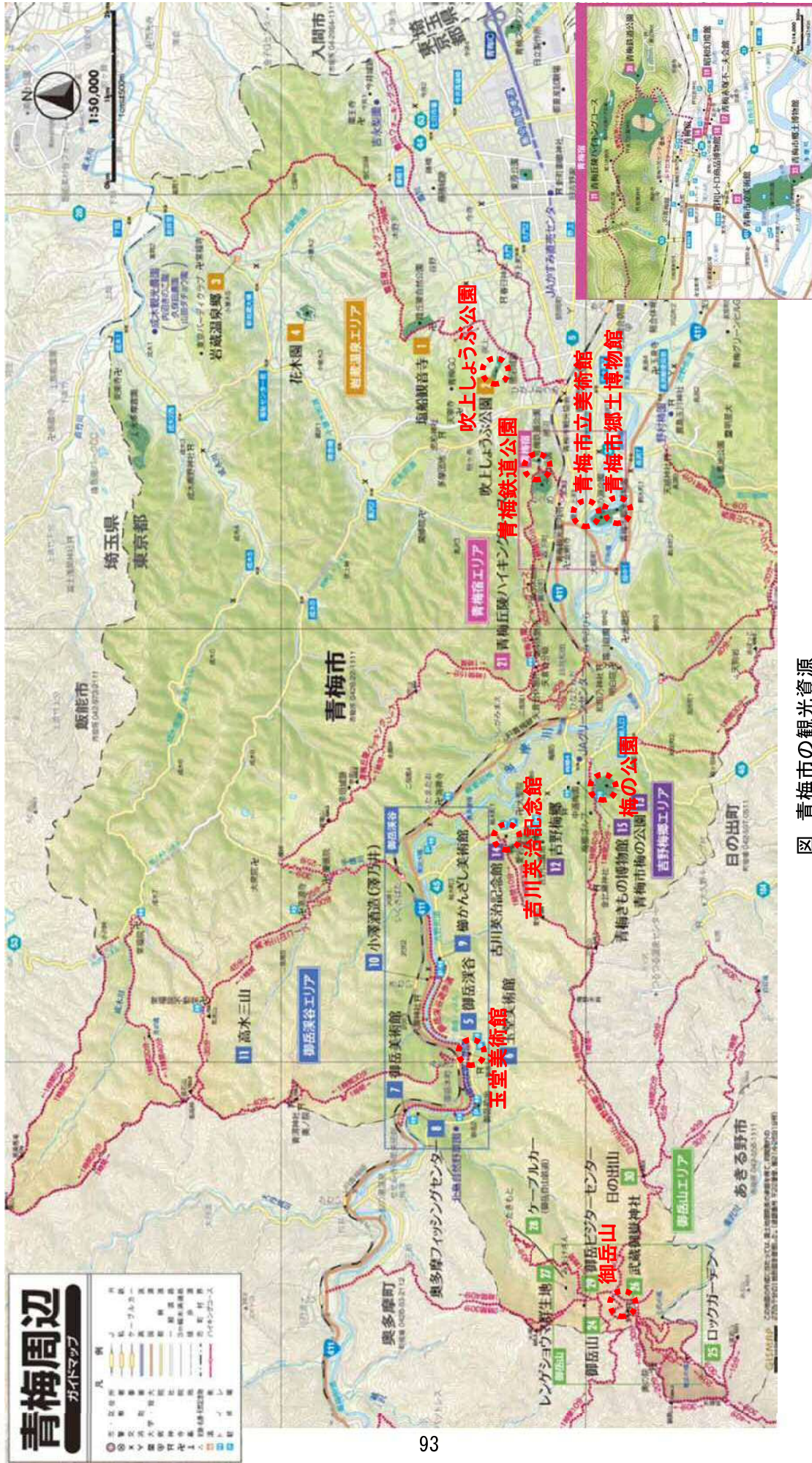


図 青梅市の観光資源

出典) 青梅市・青梅市観光協会『青梅観光ガイド』